

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|--------|---|------|------|------|---|-----|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 秋田コア ビジネスカレッジ | 昭和61年9月26日 | 小野 巧 | 〒010-0001 秋田県秋田市中通五丁目4番12号 (電話) 018-832-8303 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人 コア学園 | 昭和61年9月26日 | 神山 恵美子 | 〒010-0065 秋田市茨島一丁目4番80号 (電話) 018-865-0188 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工業 | 専門課程 | 情報システム科 (Web・CGデザインコース) | 平成7年文部科学大臣告示 第7号 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | Webデザイン、グラフィックデザインについて基礎知識・技術を持ち、実務において異なる制作環境にも柔軟に対応できるバランスのとれた人材育成を目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成27年2月17日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 1740 | 330 | 1410 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒定員 | 留学生数(生徒定員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30人 | 24人 | 0人 | 4人 | 2人 | 6人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期: 4月5日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、課題、出席、授業態度等の総合評価で行う | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始: 4月 1日 ■夏季: 7月23日～8月21日 ■冬季: 12月17日～1月9日 ■春季: 3月 1日～3月31日 ■学年末: 3月31日 | | 卒業・進級 条件 | ■卒業条件 成績要件と資格要件を満たしていること ■進級条件 成績要件と出席要件を満たしていること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・メール連絡、保護者連携、個人面談、三者面談を実施し、早期対応を図る | | 課外活動 | ■課外活動の種類 ボランティア活動、学校祭、スポーツ大会、卒業研究発表会 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の 状況※2 | ■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 秋田印刷製本株式会社、有会社クリック、デザイン関連業界 | | 主な学修成果 (資格・検定等) ※3 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 色彩検定 | ③ | 16人 | 16人 | | | | | | | | | | | | |
| | 資格・検定名 | 種 | | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 色彩検定 | ③ | 16人 | 16人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■卒業者数 7 人 ■就職希望者数 5 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 71.42857143 % | | ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■その他 ・進学者数: 1人 (本校高度職業実践科Web・CGクリエイターコース[3年課程]へ転科) | | (令和 3 年度卒業生に関する 明治33年1月0日 時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の 現状 | ■中途退学者 0 名 令和3年4月1日時点において、在学者24名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者23名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 該当なし | | ■中退率 0 % | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援 制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 コア奨学金制度、在校生特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による 学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科の ホームページ URL | https://core-akita.ac.jp/abc/course/info_system/design/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・企業等における現在のニーズ、雇用の状況変化に速やかに対応する。
- ・最新の業界の動向を掴み、実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術等の教授を可能とする。
- ・学生自らがキャリア選択・キャリア形成を主体的に行っていくためのスキルを身に付けさせる。
- ・専門的な教育内容・方法の改善・充実を図る。
- ・企業・業界団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会等は、学科ごとに組織され、委員会で提言されたことを、カリキュラム検討委員会で諮り、教育課程の編成に活かす。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月29日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|-------------------|------------------------|----|
| 松井 剛 | 一般社団法人 秋田県情報産業協会 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | ① |
| 松野奈央子 | 株式会社 コア 秋田技術センター | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | ③ |
| 佐原 孝史 | 一般社団法人 秋田県情報産業協会 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | ① |
| 中山 雅也 | 秋田協同印刷株式会社 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | ③ |
| 小笠原 貴史 | フォームズ株式会社 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | ③ |
| 八木澤 栄治 | 株式会社フォチューナ | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | ③ |
| 米谷 久志 | 秋田コアビジネスカレッジ 学科主任 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | |
| 藤井 孝太郎 | 秋田コアビジネスカレッジ 学科主任 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | |
| 黒澤 勝 | 秋田コアビジネスカレッジ 教員 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年6月16日 16:20～17:05

第2回 令和3年10月27日 16:15～17:05

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

卒業研究および企業内実習における企業との連携について、企業内実習については人的・物理的なセキュリティ、情報管理面で学生の受け入れは難しいとの意見があったため、平成30年度より連携の方法を見直し、企業より担当者を講師として学校へ派遣いただき、学校内での実習・演習授業を実施継続している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践において学ぶことによる

① 学習意欲の向上 ② 専門知識・技能の充実・深化 ③ 高い職業意識の醸成 ④ 責任感・自立心の形成を目的とする。
また、講義等で得た知識を確認するとともに実社会におけるルールを肌で感じ、組織の中で生きる上で必要な態度やスキル（職業観・勤労観の育成）を身に付ける。

さらに今後の学習方針を自ら確かめ、進路適性の確認と職業選択の機会とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業と取り交わす職業教育協定書等に基づき、次の内容で実施している。

- 1 担当者による事前打ち合わせ（実施時期・内容・成果物・評価等を決定）
- 2 連携企業より素材の提供および必要に応じて学生への説明、現場見学等の実施
- 3 制作実施（連携企業担当者および本校教員による指導）
- 4 プレゼンテーション、連携企業による評価
- 5 グループによる振り返り

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|------------|------------------------------------------------------|------------|
| ポートフォリオ制作Ⅰ | 企業と連携し、実務をイメージした形で個人制作を行い、実践力、コミュニケーション力の向上を図る。 | 秋田協同印刷株式会社 |
| ポートフォリオ制作Ⅱ | 企業と連携し、実務をイメージした形でグループ単位に制作を行い、実践力、コミュニケーション力の向上を図る。 | 秋田県情報産業協会 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

・実務に関する知識・技術・技能の向上と指導力の向上を目指した研修を実施する。
・階層別研修等による組織的な人材育成の取り組みを支援し、教員の学ぶ意欲や向上心を喚起し、自己啓発意欲を高める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「超★初心者向け！動画コンテンツ作成勉強会」(オンライン)

期間：令和3年6月23日（水） 対象：学科教員

内容：コンテンツ作成の流れ、シナリオ作り、編集のポイント等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「コア学園教職員全体研修会」(オンライン)

期間：令和3年8月23日（月） 対象：教職員

内容：模擬授業、オンライン化で何が変わったか、地方こそオンラインの時代

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

教職員の能力開発、向上に資するため、業界団体や企業が主催する研修会、セミナー等に参加し、業界分野の知識、実務の修得・向上に努める。また、情報関連業界の現状や実態について授業等において活用できる情報を収集する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

教職員の能力開発、向上に資するため、業界団体や企業が主催する研修会、セミナー等に参加し、学生に対する指導力や講義力を高める研修やカウンセリング力向上を図り、知識、実務の修得・向上に努める。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- どのような学校であり、どのような状況であるのかなど学校全体の状況を把握できるようにする。
- ・教育目標や教育活動の計画、状況、実績について必要な情報を提供し説明する
 - ・学校の活動の状況やその成果・実績を広く社会一般にアピールする
 - ・学校の問題点を共有し、改善に向けた取組みについての承認を得る
 - ・学校運営の状況等に関する情報を公表し、公的な認可を受けた教育機関として、説明責任を果たす
 - ・本校の活動等に対する関係業界、所轄庁、地域住民、高等学校、学生、保護者等の理解を深める

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|-----------------------------------|
| (1) 教育理念・目標 | ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか |
| (2) 学校運営 | ・目的等に沿った運営方針が策定されているか |
| (3) 教育活動 | ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか |
| (4) 学修成果 | ・就職率の向上が図られているか |
| (5) 学生支援 | ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか |
| (6) 教育環境 | ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか |
| (7) 学生の受入れ募集 | ・学生募集活動は、適正に行われているか |
| (8) 財務 | ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか |
| (9) 法令等の遵守 | ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか |
| (11) 国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・学校関係者評価委員会において、委員より情報公開に関する資料について、見やすさや分かりやすさといった表現についての意見を受け、自己評価報告書の書式を見直し、評価項目に対する取り組みや課題等コメント欄の一覧性を高めるなど、報告書の改訂を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月29日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|------------------|------------------------|-------|
| 松井 剛 | 一般社団法人 秋田県情報産業協会 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | 業界団体 |
| 吉川 裕太 | 吉川税理士事務所 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 浅野 雅彦 | 秋田商工会議所 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | 業界団体 |
| 石田 雄哉 | 秋田市立 秋田商業高等学校 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | 有識者 |
| 畠山 昭広 | 秋田県医師会 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | 業界団体 |
| 橋本 浩 | ホテルメトロポリタン秋田 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年) | 企業等委員 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://core-akita.ac.jp/abc/public/>

公表時期: 令和4年7月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、企業等学校関係者の本校に対する理解を深めるとともに、連携協力の推進に資するため、成果等を含めた教育活動、その他の学校運営状況に関する情報を積極的に提供するものとする。
なお、情報提供に当たっては、個人情報の取扱いに留意し、公正な情報の表示に努めるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|-----------------------------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 教育方針、教育理念、沿革、本校の特色 |
| (2)各学科等の教育 | 修業年限、募集人数、学科紹介、カリキュラム、資格取得、卒業者の進路 |
| (3)教職員 | 組織図、教職員数 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | キャリア教育、産学連携 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 学校行事、教育施設・設備 |
| (6)学生の生活支援 | 就職支援 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 学費サポート、奨学金制度 |
| (8)学校の財務 | 財務情報 |
| (9)学校評価 | 自己評価、学校関係者評価 |
| (10)国際連携の状況 | |
| (11)その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL:<https://core-akita.ac.jp/abc/>

授業科目等の概要

| (〇〇専門課程〇〇学科) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------|------------------|------------------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------------------------------|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当 年次・学期 | 授 業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企 業 等 と の 連 携 |
| | 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| 1 | ○ | | | キャリア開発 Ⅰ | 今後のキャリアについて考え、働くために必要な能力について意識し、就職活動につなげる。グループワークを通して、コミュニケーション能力を高める。また、一般常識試験や適性試験に対応出来る能力を身に付ける。 | 1 通 | 30 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 2 | ○ | | | キャリア開発 Ⅱ | 今後のキャリアについて考え、働くために必要な能力について意識し、就職活動につなげる。グループワークを通して、コミュニケーション能力を高める。また、一般常識試験や適性試験に対応出来る能力を身に付ける。 | 2 通 | 30 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 3 | ○ | | | ホームルーム ／就職支援 | クラスの生活の充実と向上に関する話し合いの活動、イベントに関する係活動、生徒に有益な情報を提供し学習・進路・勤労・人生などに対する思索を促すガイダンス活動などを行う。就職試験ならびに就職後に必要とされる、常識やビジネスセンスを身につける。 | 1 通 | 45 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 4 | ○ | | | ホームルーム ／就職支援 | クラスの生活の充実と向上に関する話し合いの活動、イベントに関する係活動、生徒に有益な情報を提供し学習・進路・勤労・人生などに対する思索を促すガイダンス活動などを行う。就職試験ならびに就職後に必要とされる、常識やビジネスセンスを身につける。 | 2 通 | 45 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 5 | ○ | | | 一般教養 | 社会人として、またデザイナーとして基盤となる一般教養をグループ学習を通じて身につける。 | 1 後 | 30 | | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 6 | ○ | | | 一般教養 | 社会人として、またデザイナーとして基盤となる一般教養をグループ学習を通じて身につける。 | 2 前 | 30 | | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 7 | ○ | | | 文書処理演習 | Wordの基本操作を習得し、さらに様々なビジネス文書の作成演習を通して、ビジネス文書の作り方を身につける。 | 1 通 | 40 | | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 8 | ○ | | | 表計算処理演習 | Excelの基本操作をマスターし、表とグラフの作成・編集作業をできる力を身につける。 | 1 前 | 40 | | | ○ | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|--|--------------|----------------------------------------------------------------------------------|------|----------------|--|--|--|---|---|---|--|---|---|--|--|
| 19 | ○ | | WebDB | Webページにおけるデータベース(以下、DB)の役割を理解する。Webページを身近なもの(SNSシステム)と関連付けて、DBの役割、操作、活用方法を学ぶ。 | 1後 | 60 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 20 | ○ | | マイトレニング | 個人で検定試験合格や競技大会出場、コンテスト入賞など目標設定し、伸ばしたいスキルを磨く。 | 1後 | 30 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 21 | ○ | | マイトレニング | 個人で検定試験合格や競技大会出場、コンテスト入賞など目標設定し、伸ばしたいスキルを磨く。 | 2通 | 60 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 22 | ○ | | Web制作 | デファクトスタンダードとしてのjQueryといったJavaScriptなどのフレームワークやPHPなど多彩に使用したWebサイト制作の効率化を学習する。 | 2前 | 120 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 23 | ○ | | Webプログラミング応用 | Web標準のスクリプト言語JavaScript (jQuery) を学習する。WebAPIの利用やJSのリメディアルも含めてDOMやAJAX等を中心に学習する。 | 2通 | 90 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 24 | ○ | | ポートフォリオ制作Ⅱ | 企業と連携し、実務をイメージした形で個人またはグループ単位に制作を行い、実践力、コミュニケーション力の向上を図る。 | 2前 | 120 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 25 | ○ | | 動画制作 | 映像の合成、エフェクト、アニメーションなどのデジタル映像を制作するための基本的な知識を習得し、作品ジャンルごとの制作工程を理解する。 | 2前 | 90 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 26 | ○ | | 卒業研究 | 2年間で習得した知識や技術をもとに、集大成として作品制作・研究を行い、成果を発表する。 | 2後 | 280 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 合計 | | | | | 26科目 | 1740単位時間(63単位) | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|------------|--|----------|-----|
| | | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | | 1学期の授業期間 | 22週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。